



TITLE:

停留精巣にみられた精巣捻転症の 2例

AUTHOR(S):

戸澤, 啓一; 和志田, 裕人; 本間, 秀樹; 山田, 泰之; 姜,
琪鎬

CITATION:

戸澤, 啓一 ...[et al]. 停留精巣にみられた精巣捻転症の2例. 泌尿器科紀要
1993, 39(4): 377-379

ISSUE DATE:

1993-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117814>

RIGHT:

停留精巣にみられた精巣捻転症の2例

安城更生病院泌尿器科 (部長: 和志田裕人)

戸澤 啓一, 和志田裕人, 本間 秀樹

山田 泰之, 姜 琪鎬

TORSION OF THE UNDESCENDED TESTIS:
REPORT OF TWO CASESKeiichi Tozawa, Hiroto Washida, Hideki Honma,
Yasuyuki Yamada and Kiho Kan*From the Department of Urology, Anjo Kosei Hospital*

We report the torsion of the inguinal undescended testis seen in two boys 9 and 11 years old. Orchiopexy was performed in each case. We discussed the preoperative diagnosis and treatment of this disease. Orchiectomies are still frequently performed, because the preoperative diagnosis is often delayed.

(Acta Urol. Jpn. 39: 377-379, 1993)

Key words: Undescended testis, Torsion

緒 言

停留精巣における精巣捻転症の発生率は、正常位精巣に比べ高いとされている。しかしながら早期診断、早期手術がなされている例は比較的少ない。今回、われわれは停留精巣に合併した精巣捻転症の2例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例 1

患者: 9歳, 男児

主訴: 左下腹部痛

既往歴: 5歳時に他院で左停留精巣を指摘されたが放置していた。

現病歴: 1992年9月15日午後8時頃、突然の左下腹部激痛にて当院救急外来を受診した。当直医による浣腸処置にて疼痛は若干軽減したため帰宅した。翌16日早朝より再び左下腹部痛が出現したため小児科を受診し、左精巣捻転症を疑われ当科を紹介された。

現症および経過: 左鼠径部に母指頭大の腫瘤を触知し、著明な圧痛を認めた。左陰囊および陰囊内容は正常であった。超音波検査では左精巣は右側に比べてやや腫大しており、内部エコーは不均一であった (Fig. 1)。以上の所見より左停留精巣に合併した精巣捻転症と診断し、同日、発症より16時間で緊急手術を施行し

た。

手術所見: 全身麻酔下に左外鼠径輪の高さで皮膚切開を加えると暗赤色を呈する精巣が認められ、精巣上体の異常付着、体・尾部の離開がみられた (Fig. 2)。固有鞘膜を開くと精索は鞘膜内で時計方向に180度回転しており、これを整復し20分程観察したところ血流回復が認められたため精巣固定術を施行した。現在術後1カ月を経過するが、精巣血流シンチ、超音波ドプラ。いずれの検査にても左右差を認めない。

症例 2

患者: 11歳, 男児

主訴: 右鼠径部痛

既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 3歳時検診にて両側停留精巣を指摘されて以来、精巣を陰囊内に触れることはほとんどなかったがそのまま放置していた。1992年9月25日頃より右鼠径部痛が出現し疼痛が持続するため9月28日近医小児科を受診した。右精巣の血流障害の疑いにて同日、当科を紹介された。

現症および経過: 右鼠径部に示指頭大の腫瘤を触知し、軽度の圧痛を認めた。左陰囊内容は陰囊上縁に触知し圧痛は認められなかった。超音波検査では明らかな左右差は認めなかったが右精巣捻転症を否定できず同日、発症より3日で緊急手術を施行した。

手術所見: 全身麻酔下に右外鼠径輪の高さで皮膚切

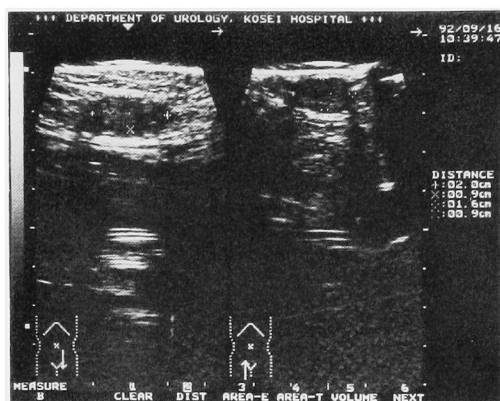


Fig. 1. Preoperative ultrasonograph of the bilateral testicles (case 1). The echo pattern of left testis was mixed pattern.



Fig. 2. Gross appearance of the left torsion of undescended testis in case 1.

開を加えたとわずかに暗赤色を呈した腫瘤を認め、固有鞘膜を開くも明らかな精索の回転はなかった。右精巣捻転症は自然整復されたものと考え両側精巣固定術を施行した。また、症例1でみられたような精巣上体の付着異常は認められなかった。

考 察

停留精巣に合併した精巣捻転症の本邦報告例は増田ら⁹⁾が、64例を集計しており自験例を含め66例と比較的稀な疾患である。停留精巣に精巣捻転症を合併しやすい原因として停留精巣では精索血管と精巣との位置関係の異常、精巣、精巣上体の付着異常、精巣上体の

Table 1. The distribution of age in torsion of the undescended testis

年 齢 (歳)	症例数 (例)
0 ~ 10	25
11 ~ 20	25
21 ~ 30	6
31 ~ 40	4
41 ~ 50	6

Table 2. Treatment of torsion of the undescended testis

治 療 法	症例数 (例)
精巣摘除術	53
精巣固定術	8
整 復 術	2
自 然 整 復	2
湿 布	1

發育異常などの解剖学異常の合併率が高く、このために可動性が増していると考えられている²⁻⁴⁾。発症年齢は生後1カ月～46歳であり、その頻度は0歳～20歳がもっとも多く、ついで20歳代、40歳代であった (Table 1)。停留精巣に対して何歳で手術をするかという問題には種々の異論のあるところである。現在は2～3歳を目安に精巣固定術を行っている施設が多いようである。これに対して谷風⁵⁾は6カ月～1歳での手術を勧めておりわれわれも同意見で、早期に診断し早期に手術することで本症の発症も予防できることと思われる。治療法に関しては、66例中53例に精巣摘除術が施行されており⁶⁻⁸⁾精巣温存の難しさを感じる (Table 2)。精巣の温存が困難な原因として主訴が下腹部痛であることが多く、小児科、外科、内科などを経て泌尿器科を受診することになる点があげられる。これに対してはわれわれ泌尿器科医が他科の医師、研修医に啓蒙していくことが最重要であると思われる。

結 語

停留精巣にみられた精巣捻転症の2例を報告し、その問題点につき若干の文献的考察を行った。

文 献

- 1) 増田 均, 川上 理, 永松秀樹, ほか: 停留精巣にみられた精巣回転症の3例. 西日泌尿 54: 1375-1377, 1992
- 2) 松本 泰: カンファレンス「睪丸の機能と形態」. 停留睪丸. 日泌尿会誌 64: 772, 1973
- 3) 佐々木春明, 池内隆夫, 森川文雄, ほか: 停留精巣に合併した睪丸回転症の1例. 臨泌 42: 1109-1111, 1988

- 4) Parker RM and Robinson JR: Anatomy and diagnosis of torsion of the testicle. J Urol **106**: 243-247, 1971
- 5) 谷風三郎: 停留精巣に対する一私見. 臨泌 **46**: 628, 1992
- 6) 青島茂雄: 停留睾丸に合併した睾丸回転症の1例一付: 本症症例35例の集計一. 臨泌 **30**: 961-964, 1976
- 7) 渡辺俊幸, 南方茂樹, 北川道夫, ほか: 停留睾丸に合併した睾丸回転症の1例. 西日泌尿 **51**: 963-966, 1989
- 8) 熊崎 匠, 禮 民, 熊谷嘉隆, ほか: 停留睾丸に合併した睾丸回転症の1例. 泌尿器外科 **4**: 833-834, 1991

(Received on November 16, 1992)
(Accepted on January 14, 1993)